

早生、中生の刈取適期は早まる！

地域で登熟進度にバラツキあり。

稲穂を確認し、的確な診断で適期に刈取りを！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

全般的に早生から中生までの品種の登熟は平年より進んでおり、刈取適期は平年よりも早まる見込みです。一方で、北村山や最上地域では、低温日照不足の影響で登熟が緩慢なほ場が見られ、地域間で登熟進度にバラツキがあります。また、「つや姫」等晩生品種の登熟も緩慢になっています。

稲穂の状態をよく確認し、刈取適期になったら速やかに刈取りに入れるように、早めに準備を進めましょう。

◎「はえぬき」「雪若丸」の登熟状況

8月30日現在の登熟歩合は、「はえぬき」は県内平坦部の平均で**60.6% (平年差+5.9%)**と平年より進んでおり(表1)、農業総合研究センター(山形市)では、登熟歩合が75.8%となっています(図1)。「雪若丸」は、県内平坦部の平均で59.8%であり、ほぼ昨年並みに早い進度となっています。

表1 8月30日現在の登熟歩合(%)

	はえぬき	つや姫	雪若丸
本年	60.6	23.1	59.8
前年	60.6	36.3	66.8
平年	54.7	32.1	—
平年比	+5.9	-9.0	—

農業技術普及課調べ、県内平坦部平均

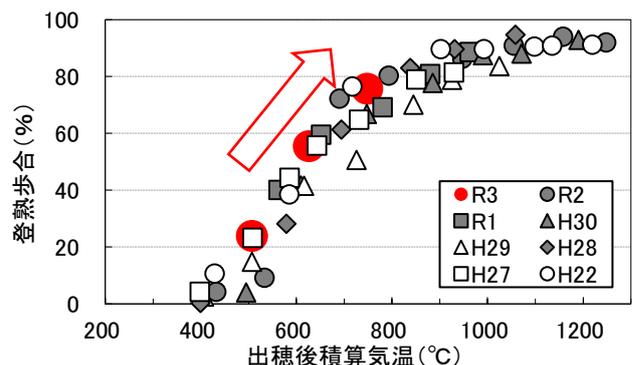


図1 出穂後日平均気温積算値(積算気温)と登熟歩合(農業総合研究センター「はえぬき」作況ほ、8/4出穂)

◎「はえぬき」「雪若丸」の刈取適期

県内平坦部の「はえぬき」では、出穂後30日間の平均気温が25℃以上となった地域が多くなっています。この場合、登熟期間が高温で経過していることから、刈取適期を判断する出穂後日平均気温積算値(積算気温)の目安を50℃前倒しの900℃からとすると、刈取適期は、平年より5~7日程度早まる見込みです。

「雪若丸」の刈取始期は、積算気温950℃からが目安となり、8月2日出穂期では9月10日頃からとなる見込みです。

積算気温を目安とし、枝梗の黄化、青粃歩合、粃水分、倒伏程度などを加味して総合的に判断します。

◎刈遅れは、胴割れ・茶米等による品質低下の恐れあり！適期内収穫を！

出穂後10日間の気温が高温で経過したことから、胴割粒が発生しやすい条件となっています。刈取適期を過ぎると通常より早く品質が低下しますので、絶対に刈り遅れないようにします。一方で、m²当たり粃数が多いほ場では、登熟が緩慢になる場合があるので、ほ場毎に登熟状況を細かに観察し、的確な診断と、早めの刈取りで胴割粒や茶米等の発生による品質・食味の低下を防ぎましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

農作業は休憩と水分を十分にとりながら、余裕を持って複数人数で行いましょう。コンバイン使用時等、収穫作業時における重大事故に注意しましょう。 **STOP農作業事故！**